

熊本県知事 蒲島郁夫様

八代市坂本町の創造的復興に関する
要望書

令和4年3月

熊本県八代市

令和2年7月豪雨災害から1年8ヶ月が経過し、甚大な被害を受けた坂本町においては、鎌瀬橋、坂本橋の仮橋の整備及び流失した3橋の本復旧に向けた測量・設計に着手いただくとともに、百済木川をはじめ県管理河川の堆積土砂の撤去など、被災住民に寄り添った迅速な対応にご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

また、復興まちづくり計画策定に向けた地区別懇談会や球磨川水系緊急治水対策プロジェクトの一環である輪中堤・宅地かさ上げに関しましても、集落の再生に向けた地元協議等に積極的にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このように、目に見える形で一步ずつ着実に復旧が進み、被災地域の皆様は、元の生活を取り戻しつつあり、これも熊本県をはじめ関係機関の多大なるご協力の賜物であり、重ねて感謝申し上げます。

さて、昨年策定した「八代市坂本町復興計画」から、創造的復興をさらに加速させていくため、具体的な取組を示す「八代市坂本町復興まちづくり計画」を本年3月に策定したところです。

この計画は、坂本町の地区別計画のほか、災害公営住宅の整備、坂本支所を中心とした生活サービス拠点の形成、避難先の確保や新たな防災拠点の整備を盛り込んだ構成といたしております。

地区別計画における住まいの再建に関しましては、輪中堤もしくは宅地かさ上げによって安全な居住地の確保を図ることとしています。

坂本支所の再建に関しましては、医療供給体制の確保をはじめ、地域住民の皆様にとって利便性の高い“まち機能”を集約し、賑わいの再生を目指すことが重要です。本市では、県道中津道八代線より山側で一体的な整備を図ることとしています。

また、計画づくりを進める中で、住民の皆様からは、先の豪雨災害の経験から、唯一、球磨川沿いで八代市街地と坂本町を結ぶ国道219号は複数箇所が被災し、避難の際に困難を極めたというご意見が多く寄せられています。

発災時における球磨川右岸側の避難路の確保、坂本町におけるリダンダンシーの確保という観点からも、県道中津道八代線については、重要な役割が期待されており、車両通行が不可能な区間や、洪水時に通行不能となる区間の解消が急務となっています。

坂本町の創造的復興は、本市といたしましても最重要課題と認識し、全庁を挙げて全力で取り組んでおりますが、被災地域の皆様が将来に向かって安心して暮らせるような創造的復興のまちづくりを実現するためには、県による重点的な支援が必要不可欠でありますので、下記事項について要望いたします。

記

1 安全な居住地の確保について

県管理河川沿いの集落における安全な居住地の確保に向けて、輪中堤もしくは宅地かさ上げの意向を固めた集落において、その早期着手をお願いしたい。

特に油谷川沿いの集落は、支所周辺のまちづくりと密接に関係することから、連携を図りながら事業推進をお願いしたい。

また、内水対策については、国と連携し、流域治水対策の一環としてご支援等をお願いしたい。

2 坂本支所再建及び支所周辺まちづくりの推進について

(1) 県道中津道八代線の付替えについて

坂本支所及び周辺の一体的なまちづくりを推進するため、国と連携し、権限代行で施工中の県道中津道八代線の一環として、支所周辺の付替えにご協力いただきたい。

(2) 医療提供体制の確保に向けた支援について

坂本支所周辺の整備に併せて、「官民協働による医療を提供する場」の設置について協議を行うことにしております。また、令和4年度からデジタル医療 MaaS 推進事業を実施することとしており、

まずは、関係機関による協議会を発足し、事業実施に向けた検討を行うこととしております。

そのため、これらの協議の場にご参加いただき、事業実施に向けてご支援いただきたい。

(3) 坂本支所及び周辺整備関係について

支所周辺の球磨川沿いで検討している「川に親しむ交流拠点」の整備に向けては、今後、地域住民の皆様との意見交換を行いながら取組を進めたいと考えており、平常時の利活用だけでなく、地域の防災力向上に寄与する施設として、“河川防災ステーション”の整備検討にあたって連携をお願いしたい。

3 安全・安心な避難路の確保について

国と連携し、権限代行で施工中の県道中津道八代線について、早期に次の区間の避難路機能の確保・実現をお願いしたい。

- ①車両不通区間（生名子地区～深水川口地区）の解消
- ②洪水時浸水区間（藤本・大門地区～支所周辺、支所周辺～中谷橋）の解消

また、球磨川左岸に計画を進めている新たな防災拠点へのアクセス強化を図る上でも、県道破木二見線の機能向上をお願いしたい。

令和4年3月25日

八代市長 中村 博生